

山の安全について思うこと



NPO 法人 山梨県防犯設備士協会 事務局長 中村 保

○はじめに

「地域協会だより」ということで執筆依頼を受けましたが、当協会の活動内容について全国の皆様に紹介出来るようなトピックスは持ち合わせていません。全国的な刑法犯認知件数の減少、また、無施錠世帯が多いという本県の特長事情等も相まって、防犯意識の高揚をテーマに掲げても県民の反応は鈍く協会運営は悪戦苦闘の状態が続いております。

そこで、「防犯設備」に関する話とは内容的に若干かけ離れてしまうとは思いますが、風光明媚な南アルプス市の住人として「山の安全」について思うところを述べさせていただきます。

○山の魅力

「春は花 夏はほととぎす 秋は月 冬雪さえて涼しかりけり」

この歌は、川端康成氏がノーベル文学賞受賞の記念講演で日本人の美の心を表現しようとした言葉として知られているようです。曹洞宗の開祖道元が歌った有名な和歌ということでご存知の方も多いと思います。

浅学な私ごときが和歌の話をするなど本当に恥ずかしい限りですが、日本の特徴である春夏秋冬の自然美を体感できるもののひとつが「山」ではないかと思います。ただ私のレベルで表現すれば、「春は山菜を求めて、夏は涼を求めて、秋は紅葉を求めて」ということになります。ちなみに、冬山に挑戦するだけの技術と体力は持ち合わせていませんので、このスリーシーズンが私の活動時期です。

本県民にとって贅沢なのは、その日の朝の天候を見て登山の可否を判断し行動を開始できるという点です。また、自分が登った山を別の山から眺めるよろこびを常に体感できるというのも自慢のひとつです。

甲府盆地は、その周囲を多数の山々に囲まれており、職場の事務室の窓からは、北に八ヶ岳、西に甲斐駒ヶ岳と南アルプス、南に信仰の山七面山、そして東には富士山という贅沢極まりない最高の展望に恵まれています。まさに山岳展望の聖地だと自負しております。(本県の「日本百名山」は12座です。)



甲州市勝沼町から望む南アルプスの山並み

○山岳遭難事故防止対策

山に関して言えば、一般的には平地に比べ犯罪そのものは起こりにくい領域であると思いますが、それでも盗掘等の森林法違反や登山口付近の駐車車両に対する車上狙いなど、犯罪の発生は皆無ではありません。(ちなみに本県では過去に、山小屋の主人が女性登山客を殺害するという山岳関係者にとって大変ショッキングな事件が発生したことがあります。)

ここでは、近年全国的に大きな課題となっている山岳遭難防止のための環境整備の必要性について、日頃感じていることを述べたいと思います。

新聞やテレビ等のマスコミ報道によると、山岳遭難事故の中で最も多いのが「道迷い」です。

当県は、日本有数の山岳県で日本百名山のミニ版という訳ではないですが、「山梨百名山」と言われる山々が甲府盆地を囲むように点在しております。

私は現在、そのうちの9割以上をクリアしていますが、正直な話し何度も道に迷い引き返した経験を持っています。

どうして道に迷うのか。それは指導標（案内板）の整備が不十分だからにほかなりません。登山は自己責任などと簡単に言うのはあまりにも無責任だと思います。各自治体が県内外から訪れる観光客に対しインターネット上や観光マップなどで管内の山々を紹介しており、行政として遭難防止対策を講じることは当然の義務だと思います。関係者の方々には、もっともったこうした面にも目を向けて欲しいと思います。登山届提出の義務化等の対策も登山者個々の安全意識を高めるための有効な手段であることは十分理解できますが、いわゆるハード面の対策である指導標の設置等、山岳遭難の起こりにくい環境整備こそが重要であると痛感しています。



鳳凰三山(観音岳に続く白砂の登山道)



甲斐駒ヶ岳の雄姿

○「酒」と登山の関係

私の勝手な推測ですが、山好きの皆様方の中には「左党」の方も多いかと思います。以前の私は、登山の友として冷えたビールをザックの中に入れていました。もちろん頂上で乾杯することが目的です。しかし、ある時から酒類の持込をキッパリ辞めました。

理由はズバリ、危険だからです。ご存知のとおり山岳遭難事故の発生は「下山中」が9割以上を占めています。つまり簡単に言うと、酔った状態で下山することは「飲酒運転」と同じだということです。

下山の際に大切なことは、次に踏み出すステップポイントをしっかりと目視して確認することです。少しでも脇見などしようものなら大変なことになります。小石を踏んだり木の根っこを踏んだりして転倒のリスクが極めて高くなります。下山には登り以上の注意力と集中力が必要になってくるということです。アルコールの影響でこれらが散漫になって重大事故につながる危険性が高まることは間違いありません。

山岳事故に関する統計の中に遭難者の飲酒の有無を示す数値は確認できないため断定的なことは言えませんが、飲酒後に下山したことが原因で転倒(滑落)したというケースは決して少なくないと思います。(私自身、頂上で「酒盛り」をしている登山者グループを何度も目撃しています。)

登山中の飲酒がいかに危険な行為であるか理解して欲しいと思います。

「アルコールは下山後」を是非心掛けたいものです。



ハヶ岳の山中にある「赤ちようちん」(標高2400m)

○自分自身の事故防止対策

下山中の転倒事故を防止するためには、足腰の鍛錬が不可欠であると思います。そのため私が普段心掛けていることは、レジスタンス運動（筋肉に負荷・抵抗をかける運動のこと。要するに「筋トレ」です。）の継続です。ウォーキング中のスクワット、腕立て伏せ、そして登山日以外の日のロードバイク（安全を考慮してサイクリングロードが中心）などです。

もうひとつは、これこそ基本中の基本だと思いますが、可能な限りの早出を実践するということです。このことで「時間的余裕」を得ることが出来ます。道迷い等のトラブルに遭遇した時、人は絶対と言っていいほど焦ります。ここで怖いのが焦りは必ず無理を呼ぶということです。その結果、「沢を目指す」という致命的なミスを犯してしまい、場合によっては最悪の結末を迎えることとなってしまいます。

○終わりに

今回、「地域協会だより」というテーマを与えていただいたにもかかわらず、その趣旨から外れた投稿内容となってしまったことを、謹んでお詫び申し上げます。

冒頭でも申し上げましたが、我々地域協会は運営資金の問題等、大変厳しい現状の中で何とか生き延びています。

当協会としては、今後も全国組織である日本防犯設備協会とのコミュニケーションを図るとともに、各地域協会の皆様からのご指導を賜りながら協会としての責任を果たしてまいりたいと思います。



秀麗な富士の姿